

YELL ～エール～

修学旅行記

11月24日早朝。まだ暗い中、学校へ着くと既に沢山の先生方が来られていて、バスの誘導や保護者の方の送迎に対応する為の準備を下さっていた。前日の雨のせいでグラウンドコンディションが悪く、靴やバゲッジを出発前から汚してしまうことにもなるので出発式を関空で行う、雨 version に切り替えバス内点呼とした。6時50分、点呼完了。227名全員出席だった。予定より少し早かったが関空で少しでも余裕が持てるよう学校を出発した。

空港ではこの旅行中お世話になるJTB添乗員の方や、アテンダントナースの看護師さんとの出会い、出発式を行った。その後、空港での手続きも滞りなく終わり、いよいよ飛行機へ搭乗となった。

もう飛ぶか、もう飛ぶか…と思わせてまだ。準備体操でもしているかのようにゆっくり、ゆっくり滑走路を進んでいく。私の経験では離陸の瞬間、生徒達から歓声が起こる。しかし飛行機は、もったいでもつけるようにまだ飛ばない。ゆっくりゆっくり進んでいた機体が、一瞬深呼吸でもしたかのように止まったかと思った次の瞬間一轟音と加速、暫くして機体が浮き上がったその時、拍手と歓声。やはり(笑)。

出発式で私は「時計の針はいつも同じ速さで時を刻む。でもこの5日間は密度の濃い時を刻むことでしょう」と話した。だからというわけではないが時差の為、機内で時計の針を1時間戻した。約7時間のフライトを終えるとそこは常夏の国、マレーシアだった。現地ガイドの方との出会い、クアラルンプール国際空港を出発したのは18時

40分。この時期の日本ではもう既に真っ暗になっている時間帯だが、マレーシアではまだ黄昏時で綺麗な夕陽を見ることができた。

「マルコポーロ」での夕食はマレーシアでの最初の食事だったが、食べられない味と長時間の移動で箸の進まない人も見られた。ホテルに到着すると、お世話になるホテルの方へ修学旅行委員から英語での挨拶があった。

二日目は朝からマラヤ大学との交流会があるので、旅の疲れを少しでも取って早めに就寝するよう伝え、各部屋に分かれていった。

↓ 関空での出発式



↓ 班別交流会



マラヤ大学との交流会は、伊丹北高生を歓迎してくれる太鼓の音に迎えられ始まった。「すぐに仲良く話せるようになるだろうか」と少なからず心配もしたが、そんなことは不要だったとすぐに分かった。班別交流会が始まって間もなく、楽しそうに会話をしたり、お互いに用意してきた遊びやゲームで楽しんだりする姿があちこちで見られた。本当に所狭しと、そして過ぎていく時間を惜しむかのように、交流が深まっていくのが感じられた。



↑「ジブリの世界」

また、今年の全体交流会では今までになかった取り組みとして、北高生による「日本文化探求」のプレゼンテーションをさせていただいた。今回は5組宮本さつきさんの「思いやりのしぐさ」と、1組安慶名悠里さんの「ジブリの世界」を発表してもらった。二人とも異国の地で、初めての空気の中とは思えない堂々とした立派な発表をしてくれた。二人には北高生、AAJの学生達から惜しめない拍手が贈られていた。

出会いから別れまで3時間。でもこの3時間は何気なく過す3時間とは訳が違う。そのことは交流をしたみんな自身が一番分かっているはず。時間というのは長い短いが問題ではない。そう思える「時」が流れた。交流会後、会場の外でAAJの学生達と共にクラス写真を撮った。その時のお互いに別れを惜しむ様子からもそのことはうかがい知れた。

その日の夜。年次集会の後、修学旅行中に誕生日を迎える4名の諸君をみんなでお祝いするというサプライズを企画した。あの時のみんなの嬉しそうな表情、誰からというわけではなく気付けばみんなで歌っていた「世界に一つだけの花」。難しいこと抜きにして、みんなの気持ちが一つになれた気がした。

この世に生まれて17年。どのように過していても同じ速さで時計の針は進む。17年の時を過せば17歳になる。しかし本当に同じだろうか。交流会で学んだ3時間が、TVやゲームをして過す3時間とは中身の濃さが違ったように…その人が如何にその時を過したかで、時計の針は20年分にも25年分にも進むのではないだろうか。逆に何も心に引っかかりの無い時を過せば、半分ほどの中身しか持たない時間にもなってしまうのではないだろうか。生き急ぐ必要はない。ゆっくり行こう。でも17歳になれば17年分の経験を積み、中身の濃い「時」を過してほしいと思う。

↓ 旅行委員長挨拶



二日目、3班に分かれてのKL市内観光は「王宮」「国家記念碑」「チョコレート工場」「バティック体験」「セントラルマーケット」を順に巡って行った。

「王宮」は今年の11月に新築されたばかりの新しい王宮で、とても綺麗で立派な建物だった。「チョコレート工場」では普段では考えられないほどの量のチョコレートをつい買ってしまった。「セントラルマーケット」はKLCCやブキッ・ビンタンの大型商業施設に比べると、どこか庶民的で買い物もしやすい雰囲気を感じた。



↑ 国家記念碑

三日目にはみんなが楽しみにしていた「B&Sプログラム」があった。これについてはそれぞれの班で分かれて行動しているので、みんなが書いてくれているアンケートを後日紹介したいと思う。



↑ 新しくなった王宮

↓ ペトリス・ツインタワー



この日の夕食は「サロマ」でマレー舞踊の鑑賞をした。ハイテンションな司会の方が「ティーチャー〜ア〜シ〜ダ〜！！」と言っているうちは笑っていられたが、その内「イタミキタハイスクール〜オールティチャー！！」と叫びだし、思わず逃げようかと思ったが、つかまりステージに引きずり出されてしまった。

サロマから帰るバスに乗り込むとき見上げたツインタワーのライトアップされた光景はまるで写真でも見ているようだった。

四日目のマラッカ観光は激しい雨にたたられ、思うように名所を見て回ることができなかった。特に中華文化街散策が出来なかったのは残念に思う。しかし、その雨たるや尋常な量ではなかった。日本なら余裕で「警報発令」だろうと、思われた。随分長い間降っていたように思うが、実際にひどかったのは30分ほどで、それでも予定は変更せざるを得なかった。



↑ 雨の青雲亭

交通渋滞もあり夕食はあまりゆっくりできなかったが、それでもマレーシアでの最後の夕食を惜しむように、写真を撮っている生徒も多く見られた。

そこからクアラルンプール国際空港までの短い時間で、現地ガイドさんとお別れして一路日本への帰途についた。

こうして終わってみればあっという間の3泊5日の旅だった。しかし11期生227名で過した時間はそれぞれの胸に何か大きなものを残してくれたと信じている。かつて日本が侵攻した国、マレーシアに今はこうして訪れることが出来る。あたたかく迎えていただくことが出来る。戦争の恐ろしさと、平和のありがたみも私達は忘れてはならない。

—最後に—

今回の旅行を支えてくれた修学旅行委員の諸君、JTB添乗員の皆さん、アテンドナースの看護師さん、プレスJさん、そしてマラヤ大学の皆さんに深く感謝の意を表します。また準備段階から当日の送迎に至るまでご理解ご協力いただいた保護者の皆様にも感謝いたします。ありがとうございました。



募集！渾身の1枚！！

～修学旅行中の、この1枚！～

修学旅行中、みなさんも沢山写真をとったことと思います。そんな中で「これぞ！」という写真があれば「YELL」にて紹介したいと思います。風景でも人物でも構いませんが、人物が映っている場合は、映っている人全員の掲載許可を必ず得たものに限ります。

現地での雰囲気伝わってくる1枚、ほのぼのする1枚、楽しい様子が伝わってくる1枚があれば是非寄せて下さい。形式はデジタルで「フラッシュメモリ」等の媒体で持ってきてもらうのがありがたいですが、フィルムの写真でも構いません。みんなの投稿待っています！

締め切り： 12月9日（金）

応募先： 職員室 岡本

条件： 映っている人全員の掲載許可を得ていること